

令和元年度 事業報告

近年の青果物の生産をめぐる情勢は生産者の高齢化による作付減少に加え、異常気象や鳥獣害など栽培環境の不安定化により、ますます厳しさを増している。令和元年産においても高温干ばつや集中豪雨、度重なる大型台風の上陸などの影響を大きく受ける年となった。

春作ではブロッコリー、玉ねぎなど生産拡大により数量が前年を上回る品目もあったほか、トマト、きゅうり等の果菜類も好天の影響もあり順調な出荷となったが、たけのこが裏年に加え、前年の高温干ばつやイノシシによる被害拡大の影響で記録的な不作となった。

夏秋・秋冬作ではブロッコリー・白ネギ等で生育遅延や病害虫の多発により減収となった。

販売については、春作では前年末からの暖冬の影響により全国的に作柄良好で葉菜類、根菜類を中心に潤沢な入荷による価格低迷が続いた。すいかは7月に入り梅雨明けの遅れに加えて関東地方の記録的な低温もあり、海の日連休明け以降は販売に急ブレーキがかかり大きく値を崩した。かぼちゃについても北海道産の入荷が前倒しとなり販売苦戦となった。

秋冬作では度重なる台風の上陸で競合産地（特に関東産地）の出荷に一時的な影響はあったものの、全国的には暖冬の影響から潤沢な入荷が続き、消費税増税の影響ともあいまって消費は鈍く、重量野菜を中心に低調な販売が続いた。

これらのことから、本制度対象となる野菜類（果実的野菜、菌茸類を含む）の当年度共販実績は、出荷量25,351 t（前年比100%）、販売単価208円/kg（前年比87%）、販売金額5,273百万円（前年比87%）となった。

こうしたなか交付金の支出については、一般業務のちんげんさい・トマト・さやいんげん・きゅうり・キャベツ・ねぎで1,614千円（前年同期3,471千円）、特定業務のこまつな・すいか・夏秋トマト・ミニトマト・かぼちゃ・夏秋きゅうり・秋冬ねぎで22,973千円（前年同3,757千円）となった。